

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島南中等教育学校

学校番号 47

評価実施日	令和4年3月8日(火)		
委員	氏名	所属等	備考
	是澤 祐二	学校評議員(学識経験者)	
	稲澤 実	学校評議員(JR宇和島駅駅長)	
	松為 教輔	学校評議員(名門サカイ株式会社代表取締役社長)	
	武部 洋安	学校評議員(下灘漁業組合代表理事組合長)	
	神野 圭一	学校評議員(宇和島警察署 交通課長)	
	土居 道德	学校関係者評価委員(伊達博物館館長)	
	山村 由美	学校関係者評価委員(宇和島市立明倫小学校校長)	
	田中 多紀	学校関係者評価委員(宇和島ケーブルテレビ 宇和島局 編成制作部長)	
	信國 正道	学校関係者評価委員(PTA顧問)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価等について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・ほとんどの項目で良好な結果が出ている。多くの先生方が教科指導の充実に熱心に努められているのが分かる。・「生徒の家庭学習の習慣が身に付いているか」の評価がやや低いのが気になる。 <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、様々な活動や指導が多く制限を受けた中でも色々な工夫や頑張りにより、よい評価が出ているのがよく分かった。先生方や生徒の努力が感じられる。・アンケート結果を見ると、交通ルール遵守に対して、生徒たちの意識は高いと感じた。大半の生徒はルールを守れているが、危険な自転車の乗り方をしている生徒も見かける。大事故につながる恐れもあり、自転車事故への罰則も厳しくなっているので、一層のルールの徹底をお願いしたい。警察署とも連携し、事故0を目指すとともに、交通マナーアップ向上にも努めてほしい。・近年、SNSを通じて知らない人とつながり、犯罪被害に遭うケースが増加している。SNSで知り合った相手と気軽に会わないなど、具体的な事例等を紹介した上でSNSの使い方に関する呼びかけを実施してもらいたい。・生徒数の減少で集団活動も厳しい部分もあると思うが、仲間と汗を流すスポーツの楽しさを伝えてほしい。 <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">・主体的な学習意欲、態度を育てるためには目標がなければできない。そのため「進路の目標設定を含め、早めの意識付けが必要」と提示されている通りだと思う。	<ul style="list-style-type: none">・各教科の授業で学習方法についてのガイダンス機能を強化し、生徒の自主的な学習態度を養う。・引き続き毎時間の授業内容に即した課題を、多少負荷がかかる程度の分量を課すことで、学習習慣の確立に努める。・前期生については、体験的な学習を継続的に実施していきたい。 <ul style="list-style-type: none">・今後も感染対策を徹底させながら、充実した活動ができるように工夫して指導に当たりたい。・交通マナーに関しては、現在実施している指導を継続し、引き続き生徒が自らの命を守りマナーアップできるように努めたい。マナーの悪い生徒には、何が悪いのか考えさせたい。・今年度も生徒への講習会の実施ができない状況であった。来年度も学級活動やホームルーム活動を利用し、SNSの利用に関する問題を取り上げ生徒間での話し合う活動など取り入れたい。・生徒の実情を理解し、効果的で細やかな指導を実施したい。実績のアピールについては、どのような方法がよいのか検討したい。 <ul style="list-style-type: none">・今後も進路関係の情報発信に努め、様々な場面で進路目標に対する意識付けを促していきたい。

<p>(4) 特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに合わせた指導の中であって、個々何をしたいかと思っていることを見つけ出す指導方針が、これからの社会生活において必要な重点目標になってくる。個々に楽しく思えるもの、それに集中して取り組んでいけるものを体験してもらうことが必要である。 <p>(5) 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントが社会問題となっている昨今、差別意識のない、立派な社会人になってくれるような教育をお願いしたい。 ・人権意識の高揚に関するアンケートにおいて、生徒の評価が高く、日頃から様々な教育活動の中で人権・同和教育の推進に努めていることが理解できた。 <p>(6) 健康・安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、先生方が落ち着いて指導されており、いい評価結果をもたらしている。目標が達成されており、安心している。 <p>(7) 図書・視聴覚・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から生徒の情報リテラシーが上がっていることは大変すばらしい。評価も高く、情報教育に熱心に取り組まれていると思う。通常の授業だけでなく、ICTに対応した授業に対してもかなり準備をされているのではないかとと思うが、教員への負担は大きいのではないかと心配である。タブレットなどの定期的な管理が必要だが、これも教員に負担がかかっているのではないかと。 ・全体の中で高評価の読書指導を引き続きお願いしたい。読書の時間は心を落ち着かせ、他人の様々な考えや生き方を知ることによって自らの視野も広がると思う。 ・「書籍貸出冊数」や「読書冊数」が数値目標を上回っている一方で、「朝読書によって本に親しむ機会が増え、読書量が以前より多くなった。」という項目では低評価の生徒が3割近くを占めていた。全体の底上げをどう図っていくかが課題である。 <p>(8) 学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々いろいろな分野に取り組んでいることを感じる。学校生活は社会に出るための基礎作りであると思う。大変な社会の中で、子どもたちが生き生きできる学校生活を送れるような指導をされている先生方の努力が伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の特性を理解し、自分に合った進路を選択できるよう支援することが必要である。個々に応じた適切な支援が行えるよう連携していきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、ホームルーム活動については、生徒が様々な人権問題を自分事として捉え、より主体となった活動ができるような体制づくりに努める。 ・悩みや不安を抱えた生徒のサポートをするために、全校生徒を対象に「学校生活をよりよくするアンケート」調査を2度実施し、更に2学期後半より前期生に関しては「月末振り返りアンケート」を実施している。結果について学年団を中心に迅速に対応し、その後も継続的な見守りを行っている。 ・県のSNS相談「ほっとえひめ」のしおりや、人権擁護委員会の「子どもの人権SOSミニレター」を年間複数回配布して紹介し、利用を促した。 ・来年度は上記の取組をさらに充実させていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で対応が多岐に渡っているが、生徒・教職員の健康・安全のための取組を継続できるよう努めたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、電子黒板の導入、生徒の一人1台端末の導入で、授業の進め方も大きく変化した。情報機器を扱う頻度も増えたが、まだまだ操作に不慣れな部分もある。今後も随時校内研修を実施し、教職員全員が機器を使いこなしていけることを目指したい。 ・コロナ禍になってから朝読書の時間に健康観察を実施することもあり、落ち着かないこともある。今回、前期課程では集団読書で新しいジャンルの本を読んだ。今後でもできることを工夫しながら、読書の時間の確保、新しい分野の本への挑戦を目標に読書に親しませていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で様々な対応を迫られる昨今において、今後も知恵を出し合い、工夫しながら、生徒たちの活動で最大限にできることを実施していけるよう努める。今回、学校評議委員会並びに学校関係者評価委員会にいただいた御指導、御助言をしっかりと生かしながら、来年度の教育活動に生かしていきたい。
<p>2 説明・公表等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを閲覧している保護者も多いため、引き続きホームページでの発信をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校について知っていただけるよう、機会を逃さず地域への情報発信に努めていきたい。

3 学校運営への提言

(コロナ禍における教育活動と働き方改革)

- ・教職員間の交流が制限される中、厳しい状況であったと思う。新たな交流方法等の取組が急務である。
- ・新型コロナウイルス感染拡大への対応が長期化する中、生徒たちを第一に考え、奮闘されている教職員の方々に頭が下がる思いである。生徒たちだけでなく、教職員の「心」も心配である。気軽に相談できる体制の充実を願いたい。
- ・通常の学校運営ができず、先生方の苦労は計り知れないものだと思う。生徒たちも思い切り勉強や部活動に取り組むことができずかわいそうで残念である。ただそういった中でも先生方が落ち着いて指導され、子どもたちにいい評価結果をもたらしていた項目があり、安心した。
- ・コロナ禍で学校行事の変更や中止がある中、「生徒は体育祭、文化祭など多くの学校行事に積極的に参加している」という項目において、保護者の評価が高かったのは、生徒のために教育活動を工夫しつつ実施されてきた成果が出ているのではないか。
- ・様々なことが制限される中、可能な限りの対策を取り、勉強、部活動ともに継続してほしい。また、学校での活動や取組などを地域をはじめ外にどんどん発信する機会を設けてほしい。

(中高一貫教育の推進)

- ・「中高一貫教育の推進」については良好な結果が出ており、よく努力されている。一方で、学校説明会参加児童数が56名というのは少ない。「学校説明会の実施方法について更に検討し」とある通り、小学校の参観日等において、児童、保護者双方に説明できる機会等もあればよいのではないか。
- ・中高一貫教育のメリットを継続し、現行よりさらにステップアップできるよう学校運営をお願いしたい。
- ・校長が目指す教育理念について、直接生徒たちと触れ合っている先生方の意見も参考にさせていただきながら、一つの形を作り上げられるような方針が必要である。

(コロナ禍における教育活動と働き方改革)

- ・中高一貫校ならではの多くの業務に加え、あらゆる教育活動のコロナ対応が加わり、「ゆとり」が奪われ、生徒及び教職員間の交流が制限される中、今年度導入した一人1台端末の利活用、学校行事等のスリム化、時程の見直し、各書類・教材の簡素化やデジタル化、連絡業務の効率化や会議の縮減や簡素化、ホームページやメール連絡網「マチコミ」等による保護者への速やかな情報提供、「マチコミ」や自動音声メッセージ等を活用した勤務時間外の電話対応等、教職員の勤務時間の削減や業務改善に努め、働き方改革に取り組んでいきたい。
- ・勤務時間の削減のみにとらわれず、学校全体で共通理解を持った取組、風通しの良い職場づくりや職場環境の改善、ワークライフバランスの実現等、教職員の「やりがい」や「幸せ」に着目した働き方改革を進め、教育の質の向上を目指していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事等は、昨年同様、中止または延期、縮小して実施した。しかし、生徒は昨年の取組を参考に、できる範囲で、できる事を精一杯取り組んでくれた。今後も生徒会を中心に意見を集約し、コロナ禍でも充実した教育活動が実施できるようにしていきたい。

(中高一貫教育の推進)

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体験入学会は中止、学校説明会は地域に出向いていくこともできず、本校でのみの開催となった。今後は、コロナ禍であっても多くの小学生・保護者に来校してもらえるよう、学校の魅力化に努めていく。中高一貫教育の良さを多くの方々に理解してもらえるよう、本校ならではの中学生と高校生と一緒に取り組む体育祭や文化祭・部活動・その他交流活動を参観してもらったり、その動画をホームページにアップするなど、広報活動にも力を入れたい。また、中高一貫教育の強みは何であるか、教職員で共通認識を持つとともに、学校評価時のアンケートや日々の交流から意見を汲み取り、6年間を見通した質の高い教育実践に全力で取り組みたい。